

<日本史探究③⑦> 平安時代⑧ 教科書: P.83~P.85

①院政期の文学・芸能

①文学では、平将門の乱を記した『1. 』や、前九年合戦を記した『2. 』といった(3.)が書かれた。一方で、藤原道長の人生を肯定的に描く『4. 』や摂関政治の様子をやや批判的に描く『5. 』などの和文体のすぐれた(6.)が著された。

②また、インド・中国・日本の1000余りの説話を集めた『 』には、武士や庶民の活動・生活の様子が描かれた。

③庶民的な芸能が、貴族にも流行し、後白河上皇がみずから民間の流行歌謡である(7.)を学んで『8. 』を編集した。

(1)平安時代末期当時、庶民の間に流行した歌謡は？ ()

④また、豊作祈願の踊りと音楽に始まる(9.)や、中国から伝来した寸劇に始まる(10.)は、庶民のみならず、貴族のあいだにも流行し、^{ぎ おん まつり}祇園祭などの^{ごりょうえ}御霊会や大寺院の^{ほうえ}法会などで演じられた。室町時代には、9・10が融合して能に発展する。

(1)田植えのときの豊作を祈る踊りからおこり、平安時代中期以降芸能化して、京都で流行したものは？ ()

(2)奈良時代に唐から伝わった曲芸・奇術などの雑多な戯芸で、のちの能の源流ともなったものは？ ()

2 院政期の仏教

① 天皇家により大寺院がつくられる一方、寺院に属さない(11.)や(12.)などと称された民間布教者によって浄土教が全国的な展開を見せた。

② 奥州藤原氏が建てた平泉の(13.)や陸奥[現在の(14.)県]の(15.)、豊後[現在の(16.)県]の(17.)、伯耆[現在の(18.)県]の(19.)など、地方豪族のつくった阿弥陀堂や浄土教美術の秀作が各地に残されている。

- (1) 豊後に建てられた九州最古の阿弥陀堂は? ()
(2) 陸奥国に建立された阿弥陀堂は? ()

3 院政期の美術

① 絵と文字を記した部分の(20.)を交互に配置して時間の進行を表現する(21.)は、この時代には(22.)の手法が用いられて発展した。

② 『23. 』は室内が吹抜屋台の手法、貴族の男女の顔が引目鉤鼻と呼ばれる描き方がされていて、『24. 』は応天門の変を題材として描き、貴族や都の民衆の表情が見られる。

- (1) 平安中期の代表的物語を題材とし、吹抜屋台・引目鉤鼻という描き方で貴族の生活を描いた絵巻物を? ()
(2) 応天門の変を描いた絵巻物を? ()

③ 平安後期の宮廷行事や祭礼・法会などを描いた『25. 』や、霊驗談を動的に描いた『26. 』、動物を人間のように描いた『27. 』などが、院政期の代表的な21である。

- (1) 僧命蓮に関する3つの説話を題材としたもので、庶民の生活・風俗をよく描いている絵巻物を? ()

④ このほか、『28. 』には、下絵に庶民の生活を描かれ、平清盛が安芸の(29.)へ納めた『30. 』には、豪華な絵や装飾が見られる。

- (1) 大阪府の四天王寺に伝わる、院政期を代表する装飾経は?()
(2) 平清盛が『平家納経』を奉納した、平氏の氏神とされた神社は?()